

藤 沢

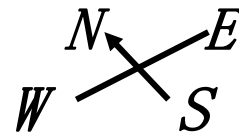
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2025年1月1日

第368号



<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ F A X 0466-87-4922

主
な
記
事

- ・今すぐアクション 未来を守ろう
- ・気候危機と平和の危機
- ・20年目の不戦の誓い平和行動
- ・くらしフェスタ in Fujisawa
- ・中国・成都のパンダ

戦後 80 年を迎えて

1945 年終戦、その前年生まれた私は今 80 歳。生活ぶりは原始時代から宇宙時代へと超特急で跳ばしてきた感がある。

小学生の頃、母は外で‘火起こし’から始め、それを‘かまど’の薪に移してご飯を毎朝焚き、井戸水から味噌汁をつくっていた。中学生の頃、裏隣の家にテレビが入り、プロレスの力道山を観に家族で招かれた。学生時代、東京は学生運動が盛上る。就職後、給料はたった 5 年で倍増した。結婚してバブル崩壊、つつましく子育てに明け暮れた。

日本の平和憲法の生まれた時代に育ち、貧しくても食料はあり、平和教育を受け、戦争を経験せず、未来は明るいと感じてきた幸せ世代だったと言える。

今の若者はどんな未来を想像しているだろう？ 気候危機、防衛費が GDP の 2 倍 3 倍の未来はどうなるのだろうか？

2021 年 1 月 22 日、長年の核廃絶運動の結果、国際条約「核兵器禁止条約」が発効した。今もこれに反対しているのは、米国、インド、北朝鮮の 3 か国。唯一の被爆国である日本は核軍縮、不拡散を使命としているが、核禁条約には署名も批准もしていない。米国の核の傘の抑止力に頼っている。これで平和を守れるのだろうか。世界を平和に導けるのだろうか。

ロシアによるウクライナ侵略戦争、イスラエルによるガザ地区へのジェノサイドは未だ止められず、何年にもわたり続いている。戦争は始めたら、終わらせるのは非常に難しい。戦争はしない事、始めない事、これに尽きる。

核を持たない東南アジア諸国連合(ASEAN)の 10 か国は、政治/安全保障、経済、社会/文化の 3 つの柱を中心に毎月話し合い、平和を築きあげている。平和を創り出す原点は民族の違い、宗教の違い、文化諸々の違いを乗り越えて、お互いの交流、理解、話し合いだと教えている。

戦後 80 年、被爆 80 年の 2025 年を迎え、未来が明るく見通せるように、若者が希望を持って未来を語れるような、平和で気候穏やかな世の中に向かって歩んでいきたい。(青柳節子)



辻堂海岸から江の島を臨む 25.1.1

海の中から地球が見える ～気候危機と平和の危機～

11月24日(日)、福島の子もたちとともに・湘南の会が主催する講演会に参加した。講演者は、武本匡弘さん。武本さんは、環境問題だけでなく、平和の問題に深く関わり、常に情報を発信し続けている。地元では超人気のスピーカー。プロダイバーで環境活動家。

今回は『海の中から地球が見える～気候危機と平和の危機～』というタイトルで1時間とちょっとのお話だった。会場である市役所本庁舎5階の会議室はほぼ満席で、子どもたちの姿もちらほら。「武本さんのお名前は前から知っていたけれど、講演は今回初めて」という方もいらした。

スクリーンに映し出される図表や写真を見ながら、武本さんのお話にどんどん引き込まれていく。子どもたちも武本さんの一番近くの席に座り、真剣な面持ちで話を聞いているようだった。

気候と平和の危機の根っこが同じであること、私たち

が何を見て、どう考えていけばいいのか、多くの示唆に富んだ、素晴らしい講演だった。

「ああ、今日はいいいお話だった」で終わらず、会場からの帰り道に「私はこれから何をすべきなのか、何ができるのか」と考えたり、

家族と話をしたくなった。

会議室の中から外に飛び出し広がる力を持った武本さんのお話は、混沌の中にある今の世界に一石を投げ、大きなうねりへと姿を変えるのではないかと、そして、その一端を自分も担いたいと思った人は多かったのではないだろうか。

まだ一度も武本さんのお話を聞いたことがない方(いるかな?)、是非チャンスがあれば聞いてみてください。現実をきちんと直視する勇気と、未来に立ち向かう力がもらえます。(藤岡みどり)



今すぐアクション 未来を守ろう！！

11/11：世界気象機関(WMO)は2024年1～9月の世界平均気温が産業革命前に比べて1.54℃上昇し、観測史上最高と発表。「パリ協定」がめざす1.5℃の目標達成は危機的状況で、このままでは、後戻りできないティッピングポイントに迫っています。

気候変動に関する国連会議 COP29 (11/11～24) では、途上国への年3,000億ドルの資金提供で合意(目標は年1.3兆ドル)。

1.5℃目標をめざし、次期NDC(2025年2月提出)に向けた各国の動向に注目。

国連決議を受けて、12/2～国際司法裁判所(赤根智子所長)は温室効果ガスの排出から気候や環境を守る国家としての義務と気候・環境に国家が重大な損害を与えた場合の法的影響について国際法に照らして検討し、勧告的意見書を出すための審議を開始しました。

国内ではCOPの結果を受け、12/25に第7次エネルギー基本計画の改定素案で6次エネ基の「原発依存の低減」は削除され、原発再稼働・新增設と2035年度に温室効果ガス60%削減(2013年度比)、40年度に同73%減が提示された。この決定に当たっては国会及び広く国民的議論が必要です。

我が国は、パリ協定の1.5℃目標達成めざし世界第5位の排出国としての責任を果たす必要があります。

県内では、今年度、鎌倉市と茅ヶ崎市など3つの自治体が「気候市民会議」を開催し、市民的な取組が広がっています(県は来年度も予算を組むようです)。

藤沢市は来年4月から「ゼロカーボン推進課」が新設され、省エネと再エネの普及が期待されます。

電気は買うより自分で作る時代!! 藤沢市では、個人住宅向けに太陽光発電(5kW)+蓄電池(4kWh)+EMS(エネルギーマネジメントシステム)の3点セット(設置費224.6万円)を160万円で設置できる補助金制度が用意されています。詳しくは→

「ふじさわ省エネチャレンジ2024」

(前年と今年の11月、12月、1月の電気使用量(kWh/月)比べるコンテストが行われています。)

省エネではこまめに消灯などの節電もさることながら、エアコン・冷蔵庫などの更新は大きな効果があります。詳しくは→



気候危機は待ってられません!!

直ちに省エネと再エネ普及のアクションを!!

(気候危機アクション藤沢 宮地俊作)

20年目の ふじさわ不戦のちかい平和行動

さる12月8日、辻堂駅北口デッキで、不戦のちかい平和行動が行われた。今回は、2003年にこの行動が始まってから20年目に当たる節目の行動だった。参加者は約100名。地域の市民団体や、立憲民主・共産・社民などの国政政党、地元の政党グループなども参加して開催された。

12月8日は、1941年、アメリカに対する真珠湾攻撃ばかりでなく、中国や東南アジア全体に対し、日本が戦争を開始した年であり、犠牲者2000万人とも言われる。

これらの国々に対する日本の戦争責任は極めて大きい。これらの戦争責任の証として、戦後、我が国は戦争放棄の憲法をもった。そして、戦後80年間、私達日本人は、この憲法を護り続けてきた。

こうした憲法とそれを護り続けてきた我らの不戦の誓いの運動こそ、ふじさわ地域の運動であっても世界平和に貢献した運動であったといわなければならない。

しかし、昨今の国政の動きは、台湾有事を口実に、沖縄列島にミサイル基地建設、軍事費倍増、敵基地攻撃容認など、米軍と一体となって戦争も起こしかねない動きが進んでいる。台湾問題について、集会に参加した日中友好協会の代表から、台湾問題は中国内部の問題であり、アメリカや日本が口を挟むべき問題ではないのに、口を挟んで緊張を高めるなどということは許されないとの訴えがあった。

一方、世界の現実、ウクライナやガザで沢山の市民や子どもが殺されている。参加者の多くから一日も早くウクライナやガザの戦争を止めさせようと、手作りのチラシを通行人に配布し殺戮の中止を訴えたり、また、イスラエル大使館にハガキ作戦で戦争終結を呼びかけようとの訴えもあった。

その他、韓国の大統領による戒厳令問題に対する連帯のスピーチなどもあった。(小林麻須男)

くらしフェスタ in Fujisawa

12月15日「くらしフェスタ in Fujisawa」がFプレイスで開かれました。

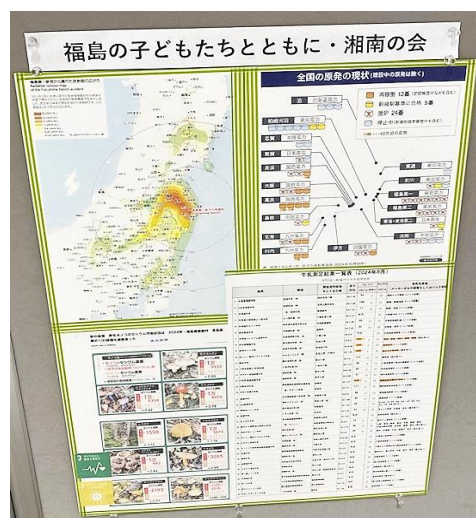
現役大学生の女流書道家の書道「エコな一歩は未来のバトン」から始まり、マイクロプラスチック汚染の映画上映、水中写真家 鍵井靖章さんの講演「海と共に生きる」、また食生活研究会からSDGsを実習で学ぶ講座など、参加の各団体が、体に良い「食」や環境にやさしい暮らしのヒントについて、大人から子供まで立ち止まって考える場を提供しようと開催されました。

私たち「福島の子どもたちとともに・湘南の会」は原発事故から5000日の現在も避難者26000人、放射線量が依然と高く「帰還困難区域」の続く地域があり、「廃炉」は始まってさえいない状況等について展示で伝えました。未だに牛乳の放射能汚染が続いているという検査結果表に、若い母親の方々が心配そうに見入っていた姿が印象に残っています。

「くらしフェスタ」の活動が、家族で楽しそうに来てくださった方々、ワークショップに参加したこどもたちにとり、安全な生活、環境について考えるきっかけとして伝わって欲しいと感じました。

また会に参加してまだ間がない私としては、59回も続くこの消費生活展の取り組みが、開催準備から始まり、当日の設営、片づけまで、支え合い協力し合う多くの人々で成り立っていると感じることのできた一日でした。

(三上直子)



くらしフェスタに展示

中国・成都のパンダ

2024年11月に中国成都を訪れました。5日間の滞在で、1日目は羽田から香港を経由して成都についたのですが、すでに夜10時。次の日からは会議で缶詰状態。やっと、4日目の午後になって仕事から解放されたのですが、ここで注意されたのが、市街地で写真はご法度。何が写ってしまうかわからないから。観光地なら写真はOKだが、できればスマホをお使い下さいとのこと。

結局、日本からの参加者と一緒に、パンダ繁殖基地に向かいました。ホテルから高速道路を使ってもタクシーで約40分ほど、市内を抜けたと思ったらもう到着、ここは、ちょうど里山のような雰囲気、アップダウンのある地形で、ところどころに飼育小屋が点在する、赤ちゃんパンダの飼育施設もある様だが今はいないようでした。

チケットを購入し、施設に入り案内板を頼りに進むと、突然パンダの後ろ姿、なかなかこちらを向いてくれません。それでも何個目かのケージで見たのが写真のパンダ。観客はこのようにスマホで写真撮影、所々でスタッフが竹藪の手入れをしていましたが、進むうちに、のんびり食事の様子をパンダを発見。なにしろ仰向けに寝てササを食べていました。なんとも人間のような(私のような)食事風景に癒されま



す。いかに緊張から解放されているかわかります。きっと、本来の生息地(もっと標高の高い場所だそうです)よりも安心して暮らしている様子でした。

このパンダ繁殖基地は、市内からそれほど離れていない割には、

施設内はとても静か、そして野鳥がたくさん。

日本の種とは鳴き声も姿も少しずつ違うところが興味深く、是非次に来ることがあれば、いつものカメラを持参したいし、時間もゆっくりしたいところでした。
(菅谷芳雄)

ECONET INFORMATION

▲平和憲法の碑建設 新春のつどい

1月10日(金) 1月13日(月) 10:30-

建立資金の説明、武本匡弘さん講演など

場所 エコストアパパラギ2F 資料代 500円

主催/申込み エコストア パパラギ 0466-50-0117

▲核兵器禁止条約発効 4周年スタンディング

2025年1月22日(水) 14:00-15:00

藤沢駅北口サンパール広場

主催=原水爆禁止藤沢市協議会

連絡先 0466-26-1980



▲観てみよう！冬の鳥たち

2025年1月23日(木) 10:00-12:00 小雨決行集合：

境川遊水地公園内「今田管理センター」

講師：高橋和也氏(大庭自然探偵団)

Eメールでのお申込を1月9日(木)必着

主催：藤沢市生涯学習総務課 0466(50)3561

【E-mail】fj1-manabi@city.fujisawa.lg.jp

▲気候危機 スタンディング

1月24日(金) 14:00-15:00

六会日大前駅西口

主催：NGO気候危機アクション藤沢



▲映画「決断」上映 3月9日(日) 14:00~

市民会館第二展示ホール 原発事故避難者ルポ

主催：福島の子もたちとともに・湘南の会

▲藤沢エコネットから

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

未納の方、納入をお願いします。

◆事務局会議 1月4日(土) 10:00~ 六会公民館

《編集後記》 迫りくる危機：気候危機そして戦争(核兵器の使用)、このままでは、もうダメかも知れない……。希望：ノーベル平和賞。核兵器のない世界へ。今やるべきことをやろう!! 明日を生きるために!! 声を挙げよう!! 原発より太陽光発電の普及を願っています。
(M)